



1

2

3

4

1. ハウス栽培では主力品種のあかつきが光を浴びて一足先に出荷を迎えた / 2. 赤く燃えるような赤銅食に染まる皆既月食が見られた / 3. 夏のような暑さだった6月。石田川には爽やかな風が吹いていた。 / 4. 身近なところに夏を感じる

「夏を先取り！」

例年より梅雨入りが遅れ、真夏のような暑さが続いた6月。市内では一足先に夏を感じる光景が見られました。夏本番を前に梁川町栗野地区の桃のハウスでは、夏のような日差しを浴びて鮮やかなピンク色に染まったあかつきが実りの時を迎えました。これから伊達の桃の季節を迎えます。5月26日の20時ごろ、月が地球の影に隠れる皆既月食と月が近づき大きく見えるスーパームーンが重なる24年ぶりの天体ショーが市内でも観測されました。

市長コラム

第34回 コンピューターと考える力



初めてコンピューターに出会ったのは、今から35年前。農業土木の技術者であった私は、それまでは、橋やトンネル、道路や水路などの構造物の設計は、基準書や解説書を見ながら、乾電池式の関数電卓を片手に悪戦苦闘していました。すべて手計算でしたので、条件が変わるたびにノートに数式を書きながら計算を繰り返していました。それがコンピューターの出現により、条件を入力するだけで瞬時に何度でも答えがはじき出せるようになり、隔世の感を覚えたのを記憶しています。

でも当時のコンピューターは、自分でプログラムを設定しないと動かないものでしたので、まだ自分の頭の中で考えていたことをコンピューターが代わりにやってくれているという感じがありました。ですから、出た答えが想定していたものとちょっと違うなというときは、プログラムの中を見ることで間違いに気づくことができましたし、コンピューターの能力が十分でなかった分、人間が考える必要があった訳です。

しかし今は、科学技術が高度に発展したことで、あらゆるものがブラックボックス化してきたように思います。

特に、これまで人間がしてきた判断を人工知能(AI)が変わって行うようになってきたら、私たちは巨大なブラックボックスの中に生きることになってしまいます。

コンピューターが進歩すればするほど、人間の思考能力や判断能力は低下していきます。例えば、ちょっと前までは地図や方角、道路標識などを見て運転していたのに、今は完全にナビ頼り。入力ミスで違うところに向かってたなんて経験はありませんか。

本来、科学技術の発展は素晴らしいものです。IoT(※)やAIの導入により鉄腕アトムで夢見た未来が近づいていますが、同時に危うさも増してきます。“ものごとの基本原則”は昔も今も未来も変わりません。複雑な計算や予測はコンピューターに任せ、出た答えを判断できる力「考える力」を養わなければ本当の意味での科学技術の発展とは言えないと思います。

須田博行

※IoT(アイ・オー・ティー) …Internet of Thingsの略。身の回りのあらゆるもの(車、家電製品、住宅など)がインターネットを介して通信すること。